

執筆要領（日本語版・2021年9月改訂）

1. 原稿

- 1) 初めに、本文とは別紙に、論文の題目、著者名、キーワード、所属、章構成、摘要を記載する。ページ番号は本文の初めを第1ページとする。また、英文要旨およびそれに対応する日本語は、本文・注・文献表とはページ番号を連続させずに、そのはじまりを第1ページとする。
- 2) 注と文献表はそれぞれ分け、本文（および付記等）の後に、注・文献表の順に並べる。
- 3) 人名や術語等の特別なものを除き、常用漢字および新かなづかいを使用する。
- 4) 句点は「。」を、読点は「,」を用いる。
- 5) 年号は原則として西暦を使用し、元号が必要な場合は（ ）に入れて記す。
【例】1990（平成2）年
- 6) 年号等を除き、4ケタ以上の整数には3ケタ区切りのカンマ（,）を入れる。
- 7) 1ケタの数は、原則として全角文字とする。
- 8) 数式の表記は2行分を用いる。
- 9) 動植物等の学名は斜字体（イタリック）を使用し、可能な限り和名を並記する。
- 10) 論説・展望・短報・フォーラム・シンポジウム論文・翻訳には、英語による題目と著者名を付記する。
- 11) 論説・展望・短報・フォーラムには、ネイティブの校閲を経た英文要旨およびそれに対応する日本語文を添付する。ネイティブの校閲を受けることが出来ない場合は、受理後に、学会から紹介する業者の校閲を本人負担で受けること。シンポジウム論文にも英文要旨を付けることができる。
- 12) 翻訳、書評以外には400～600字程度の摘要をつける。
- 13) 下記のように、章番号はローマ数字、節番号はアラビア数字、項番号はローマ数字（小文字）で記す。【例】章番号：I, II, III 節番号：1), 2), 3), 項：i, ii, iii
特殊な活字は、斜字体（イタリック）を赤色の下線により、太字体（ゴシック、ボールド）を赤色の波下線により、ギリシア文字を α などの表示によって指定することもできる。

原稿の種類	刷り上がりページ	1 ページ文字数	摘要	キー ワード	英語 題目	英文 要旨	英語 キーワード
論説	21	21 字×38 行×2 段	◎	◎	◎	◎	◎
展望	21	21 字×38 行×2 段	◎	◎	◎	◎	◎
短報	14	21 字×38 行×2 段	◎	◎	◎	◎	◎
フォーラム シンポジウム	14	21 字×38 行×2 段	◎	◎	◎	◎	◎
論文	10	21 字×38 行×2 段	◎	◎	◎	○	◎
翻訳	20	21 字×38 行×2 段	×	×	◎	×	×
書評	4	24 字×45 行×2 段	×	×	×	×	×

◎：必要，○：著者の判断でつけることができるもの，×：不要

2. 注および文献の引用

- 1) 注は本文中の当該箇所の右肩に 1), 2)……のように上付き文字で示す。
- 2) 新聞や雑誌の記事、議会の議事、あるいは統計結果等を、資料やデータとして本文中で用いた場合には、その出典は注で示す。実際にはウェブサイトのアーカイブ等を介して

閲覧したものであっても、書誌等の形で一般に存在しているものについては、この扱いとする。

- 【例】 1) 中国新聞（2011年1月15日）による。
2) 国勢調査による。
3) A社からの聞き取り調査による。
- 3) ウェブサイトに記されている内容やそこからダウンロードしたものを、資料やデータとして本文中で用いた場合には、その出典は注で該当ページの URL（閲覧日）とともに示す。
- 【例】 4) 地理科学学会会則第1条による（地理科学学会ウェブサイト，<http://www.chiri-kagaku.jp/>（2021年1月15日閲覧））。
- 4) 文章中の文献の引用は次のように記す。

・引用文献の著者が1人の場合

【例】 ……である（米倉，1956）。

森川（2000，p.40）によれば……

……といわれる（鈴木，1974，pp.102–103）。

これらの研究（松井，1931；Dacey，1963，1965a，b）によると……

・引用文献の著者が2人の場合

【例】 箸本・荒井（2001）は……

Sugimura and Matsuda（1965）は……

・引用文献の著者が3人以上の場合

【例】 作野ほか（2000）は……

Bergman et al.（1991）によると……

・文章等を直接引用する場合

【例】 この点は「……である」（和田，2001，p.40）。

田中（1968）は、「……と言える」（p.135）と述べている。

3. 文献表

- 1) 日本語版の原稿であっても、国際的な基準に合わせるために、書誌情報のアルファベット表記を併記する。その際、当該文献に翻訳としてのアルファベット表記が併記されている場合はそれを採用する。併記されていない場合は、日本語文献は投稿者によるヘボン式ローマ字表記を併記し、それ以外の文献は投稿者自身による英語訳を併記する。翻訳文献は、原著文献がアルファベット表記の場合は、その書誌情報を併記し、原著文献がアルファベット表記以外の場合は、投稿者自身による書誌情報の英語訳を併記する。
- 2) 文献表には、本文等で引用した学術論文、書籍、報告書等を掲載する。資料やデータの出典は、文献表ではなく注で記す。
- 3) 日本語の文献を先に、外国語の文献を後にする。外国語の文献は、欧語によるもの、中国語、韓国語（日本語表記でもよい）によるものと分けてまとめる。日本語の文献は著者名の50音順に、欧語の文献はアルファベット順に並べる。中国語や韓国語の文献は、それぞれ著者名の当該言語の固有の配列順に並べる。
- 4) 著者（編者や訳者等を含む。文献表について、以下同じ）が複数の場合も、省略せずに全著者名を記す。
- 5) 同一著者による複数の文献が連続する場合も、各文献ごとに著者名を省略せずに記す。
- 6) 同一著者による同じ年に公表された異なる文献が複数引用される場合は、各文献の公表年に続けて、引用順に a, b, c……と付記して区別する。
- 7) 雑誌名は当該学会が定める略記法に基づき省略することができる。
- 8) 巻号のある雑誌で、巻ごとに通しページになっている場合は号数を省略する。号ごとにページが変わる場合は号数も記す。

文献表の記載例

① 日本語単行本の場合

著者名（西暦出版年）：『書名』出版者名. Author, A.A. (year): *Title of work*.
Publisher.

【例】

岡橋秀典（1997）：『周辺地域の存立構造』大明堂. Okahashi, H. (1997). *Shuhen chiki no sonritsu kozo*. Taimeido.

経済地理学会編（2010）：『経済地理学の成果と課題 第VII集』日本経済評論社.
The Japan Association of Economic Geographers (Ed.). (2010). *Keizaichirigaku no seika to kadai VII*. Nihon Keizai Hyoronsha.

② 日本語編集書の一部の場合

著者名（西暦出版年）：論文題目.編者名編:『編集書名』出版者名, 掲載ページ.
Author, A.A., and Author, B.B. (year): Title of chapter or entry. In Editor, A., Editor, B. and Editor, C. (Eds.), *Title of book* (pp.xxx-xxx). Publisher.

→編者が1人の場合は (Ed.) , 複数の場合は (Eds.) とする。

【例】

由井義通（2004）:住宅地域. 北川建次編:『現代都市地理学』古今書院, 115-135.
Yui, Y. (2004). *Jutaku chiki*. In Kitagawa, K. (Ed.), *Gendai toshi chirigaku* (pp.115-135). Kokon Shoin.

③ 日本語雑誌の一部の場合

著者名（西暦刊行年）:論文題目.雑誌名, **巻数（太字体）** [-号数], 掲載ページ.
Author, A.A., Author, B.B., and Author, C.C. (year): Title of article. *Title of Periodical*, **xx**, pp-pp.

【例】

川久保篤志（2010）:宮崎県高千穂町における肉用牛産地の成長と持続的発展への課題——20年代初頭の和牛価格高騰期に注目して——.地理科学, **65**, 82-103. Kawakubo, A. (2010): The growth of cattle farming areas and the problem of sustainable development in Takachiho Town, Miyazaki Prefecture : Focus on the period of increase in Wagyu beef price in early 2000s. *Geographical Sciences*, **65**, 82-103.

和田文雄（2010）:新学習指導要領が示す高校地理のありかた——持続発展教育（ESD）組み込みの意義——. 地理, **55-11**, 18-22. Wada, F. (2010): Shin gakushu shido yoryo ga shimesu koko chiri no arikata : Jizoku hatten kyoiku (ESD) kumikomi no igi. *Chiri*, **55-11**, 18-22.

④ 邦訳書の場合

著者名著, 訳者名訳（訳書の西暦出版年）：『書名』出版者名. 原書の著者名.
（原書の西暦出版年）. *書名（斜字体）*. 出版者名.

【例】

フーヴァー, E.M. 著, 西岡久雄訳（1968）：『経済立地論』大明堂. Hoover, E.M. (1937): *Location theory and the shoe and leather industries*. Harvard University Press.

→原書に関する表記内容は, 邦訳書に記載されている範囲内で差し支えない。

⑤ 外国語論文の日本語訳の場合

著者名著，訳者名訳（訳書の西暦刊行年）：日本語訳論文題目・雑誌名，**巻数（太字体）** [-号数]，掲載ページ・原論文の著者名。（原書の西暦刊行年）・原論文題目・雑誌名（*斜字体*），**巻数（太字体）** [-号数]，掲載ページ。

【例】

ハーヴェイ，D. 著，廣松 悟訳（1997）：都市管理者主義から都市企業家主義へ——後期資本主義における都市統治の変容——. *空間・社会・地理思想*，2，36–53. Harvey, D. (1989) : From managerialism to entrepreneurialism: The transformation in urban governance in late capitalism. *Geografiska Annaler*, **71B**, 3–17.

⑥ 外国語単行本の場合

著者名。（西暦出版年）：書名（*斜字体*）. 出版者名.

【例】

Johnston, R.J. (1979) : *Geography and geographers: Anglo-American human geography since 1945*. Routledge.

⑦ 外国語編集書の一部の場合

著者名。（西暦出版年）：論文題目. In 編者名（Ed.）, 編集書名（*斜字体*）（pp.掲載ページ）. 出版者名.

【例】

Gillespie, A. (1991) : Advanced communications networks, territorial integration and local development. In Camagni, R. (Ed.), *Innovation networks: Spatial perspectives* (pp. 214–229). Belhaven Press.

→編者が1人の場合は（Ed.）, 複数の場合は（Eds.）とする。

⑧ 外国語雑誌の一部の場合

著者名。（西暦刊行年）：論文題目・雑誌名（*斜字体*），**巻数（太字体）** [-号数]，掲載ページ.

【例】

Schoenberger, E. (1989). Thinking about flexibility: A response to gertler. *Transaction of the Institute of British Geographers. N.S.*, **14**, 98–108.

⑨ 電子ジャーナル等を引用する場合

通常の文献記載をした上で，URLも表記する。ウェブサイトからのダウンロードによる方法でしか一般に入手できない文献についても，この扱いとする。

【例】

熊原康博（2010）：平野地域における歴史的街道沿いの地形条件——関東平野の中山道を事例に——. *E-journal GEO*, **5**, 15–34.

http://www.jstage.jst.go.jp/article/ejgeo/5/1/5_1_15/_article/-char/ja

4. 図・表・写真

- 1) 図・表・写真は，論文の位置づけや論証に必要なものだけに限り作成する。
- 2) 本文における各図・表・写真の挿入希望位置を本文右の欄外に必ず明記する。
- 3) 原図・表・写真の大きさは，長さで刷り上がりの2倍以内におさまることを原則とする。
- 4) 図・表・写真の刷り上がりの大きさは，左右の一辺が7cm以内（片段の幅）もしくは14cm以内（両段の幅）におさまることに留意する。著者は片段と両段のいずれかを指定することもできるが，編集の都合により編集専門委員会が変更することもある。

【図の注意点】

本文とは別紙に一葉ずつ清書し、図の下に図の番号・表題・注・資料等をつける。図の番号は、第1図、第2図.....とする。図はスミ入れを行い、文字や数字はレタリング等を用いて、可能な限り著者自身が記入すること。また、原則として、図の枠はつけない。注・資料にも句読点を付す。

そのままでは製版が困難な場合は、書き直しを求めるか、もしくは編集専門委員会が業者に発注し、費用の一部を著者の負担とする場合がある。

【表の注意点】

本文とは別紙に一葉ずつ清書し、表の上に表の番号と表題をつける。表の番号は第1表、第2表.....とする。表の注・資料等は表の下に記す。注・資料にも句読点を付す。表中の罫線は必要最小限にとどめる。

【写真の注意点】

番号、表題、説明等は写真とは別紙に記入する。写真の番号は、図に組み入れて、第1図、第2図.....とする。

5. キーワード

原稿（翻訳と書評を除く）には、日本語および英語のキーワードを付ける。キーワードは、日本語・英語とも6語程度を著者名の後に記入する。キーワードは研究内容（地域・対象・方法など）を明確に表し、検索語としての一般性を十分備えたものを用いること。

【例】

キーワード:広島市, 都市計画, 土地利用, 修正ウィーバー法, インナーシティ, ジェントリフィケーション

Keywords: Hiroshima-city, city planning, landuse, modified Weaver's method, innercity, gentrification

6. 投稿原稿のスタイル

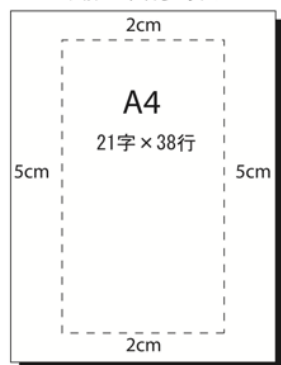
A4 版用紙を縦に使用し、1 ページに 21 字×38 行印刷し、行間を十分にあげる（次図を参照のこと）。

送付状に使用 OS、アプリケーション名を必ず記入すること。

原稿のファイル形式は、Word ファイル (.doc) (.docx)、書式付きテキスト (リッチテキスト) ファイル (.rtf) のいずれかが望ましい。

論文受理後に、CD-R などの記録メディアを送付すること。なお、翻訳・書評については、投稿時に記録メディアを原稿に同封すること。

<原稿の印刷参考図>



【編集専門委員会より】

投稿原稿に以下のような誤りがしばしば見られるので投稿時には特に留意されたい。

- 原稿へのページ番号の付け忘れ。本文・注・文献表には，A4用紙下部中央にページ番号を通して付ける。英文要旨は本文・注・文献表とは通しページにしない。
- 実際の動作を伴わない場合の表現は，「みる／みられる」，「いう／いわれる」のように平仮名とする。
- 句読点の間違い。正しくは「。」および「，」であり，「.」や「、」は使わない。上記1. (4) を参照のこと。
- 編集書を引用する場合に，〇〇〇編の「編」の欠落がみられる。文献表だけでなく，本文や注での引用箇所，図表の説明文や出典についても同様である。
- 文献のページ表記は，巻ごとに通しページになっている雑誌論文等の場合は，掲載号のページ番号を記すのではなく，巻の通しページを用いる。